

研修会報告 「第1回 学生相談を考える会」

平成20年9月12日に開催した「第1回 学生相談を考える会」について、報告する。

この会は、保健管理センターと教育学生委員会との共催により実施したものである。

以下に示す会の進行順に報告する。なお、挨拶および講演については口語体、調査報告およびロールプレイについては文語体で表記する。

1. 挨拶（須藤教育・学生担当理事）
2. 講演「学生相談の基礎知識」（佐々木大輔）
3. 調査報告「新入生への対応に関する調査の試み：基礎ゼミ担当教員を対象として」（田名場美雪）
4. 学生相談ロールプレイイングの実施（高橋恵子）

1. 挨拶

教育・学生担当理事 須藤新一

皆さん、学生相談を考える会にかくも沢山の方々にご参加をいただき、ありがとうございます。

私がここで長々と言うまでもなく、最近の大学に入学する学生の多様化が言われ、われわれ教職員も現実に色々と感じているところでもあります。多様化という言葉は抽象的な言葉ですが、学業に関する様々な相談体制、学生生活に関する相談体制など大学として学生に対応していかなければならない体制が多岐にわたっていることを意味します。多岐にわたるということについては佐々木先生が述べられる予定ですので、後ほどで理解してもらいたいと思います。

今回の「学生相談を考える会」は、様々な体制が連携して行う最初の会であると認識しています。これまでも保健管理センターをはじめ各学部には相談員を配置し、なんでも相談等の取り組みが行われています。ただし、それらの横の連携を強めて行うのは今回がスタートであるということです。

池澤夏樹という作家がおります。彼には「きみが住む星」という著書があります。是非興味のある方は角川文庫ですので、生協でお買い上げください。その著書の中に、出発は力だと言う言葉がございます。いろいろな意味に転用できるかと思います。私は今回の学生相談を考える会というのは出発だと捉えます。それで出発は力ですから、皆さんがここにおいでいただいて、そして帰る時には、次のステップへの力を得ると私は考えたいと思います。そして皆さんが得た力を次のステップの土台にいただければ、ありがたいと思います。それから継続は力という言葉も皆さんよくご存じだと思います。今回が1回目です。皆さんが得た力を次の2回目、3回目にどんどん追加させていきまして、雪だるま式に本学の学生相談に対する皆さんの力と意気込みがふくらんでいくことを期待します。